

民報

あばしり

NO.1129

2017.7.30

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四三二、四四五八
F 四三二、四四五七



ノゴマ

松浦奮戦メモ



オスプレイの訓練拡大、北海道で初演習！



MV22オスプレイ

米海兵隊普天間基地（沖縄）配備の垂直離着陸機MV22オスプレイ

が参加する北海道で初の日米共同演習が、8月に計画されていることが、23日までに米軍の契約情報でわかりました。事故の頻発するオスプレイの訓練が、北海道から沖縄まで全国に拡大することになります。陸自が今年4月21日、オスプレイの訓練移転にかかわる演習として、7月～9月に2～4週間実施すると発表していました。

オスプレイは、同演習で使用する自動車やフォークリフトなど物品のレンタル・リース契約を6月から募集していました。オスプレイのレンタル契約では、東千歳駐屯地（千歳市）で8月9日から31日、矢白別演習場（別海町）で8月16日から27日、で使用する内容になっています。この期間に日米共同演習を実施することを確認しています。

今年3月6日～17日、相馬原、関山両演習場で実施した共同演習は、過去最多のオスプレイ6機に加え海兵隊約6000人、自衛隊約3000人が参加する大規模な演習となりました。今回



市民に励まされ宣伝する会員

「ストップの会」の宣伝に市民もかけ寄る

今月2回目となる「ストップの会」の宣伝が22日行われました。国民の声を聞かず、おごり、強行することしかできないとなつていく安倍政権。宣伝に立ちどまって聞いていた50代くらいの女性が、駆け寄り「安倍首相の顔を見ていると腹がたつ、やめてほしい。がんばってください。」と目に涙を浮かべて話しかけてきました。山本代表は「市民も声を上げようと変化しているのではないのでしょうか」と話していました。

街・スポットライト



用意されていた大人用と、子ども用の自衛官の服・帽子

23日、余市防備隊に配属されているミサイル艇「クマタカ」の一般公開が行われました。街中は「夏まつり」でにぎわい、市民や観光客が楽しんでいる時に、「どうして」と疑問がわ

市民と野党の共闘の力で、仙台市長選挙勝利しました。東京都議選に次いで注目されてきた仙台市長選挙で、共産、民進、社民、自由の4野党と「市民の会」が支援した郡和子氏「無所属が、自民、公明が押す候補を1万6459票の大差をつけて破り初当選しました。ここでも国政を私物化する安倍政権への審判が下されました。市長選挙は「与野党総力戦」と報道され、市民と野党の共闘の力をはつきりと示したのでないでしょうか。安倍政権は、

東京都議選に続く惨敗ですが、網走でも地域を回ると安倍首相への怒りの声があふれています。最近の毎日新聞の世論調査では、安倍政権の支持率は26%台になり、支持率低下に歯止めがかかりません。安倍政権を倒すためにも12区で野党共闘を進めることが求められていますので、早急に話し合いをもつてほしいものです。

きました。ミサイル艇の速射砲を説明する若い自衛官は「射程距離は16キロで、ここから見るところはほぼ射程に入り、一分間に100発撃つことが出来ます」と説明してくれましたが、記者が「怖いですね」と答えると困惑していました。広報活動の一環との事ですが、岸壁には子供用の自衛官の服も用意され記念撮影が出来るようになっていいるのは驚きです。アンケートもあり、対象は26才までとなっていました。各地で行われている『勧誘』に活かす為ではないでしょうか。

流水

「ふう、仕事ってこんなに大変なんだア」と、額に汗をにじませて座り込んだNさんは、小豆アイスをおぼって、「あゝ疲れが取れる。あと20軒くらいあるので、頑張って終わらせて、シャワーしてから寝るんだ！」と、残りを配るために出かけていった。▼Nさんは、幼いころから障害を持っているため、20歳を過ぎても仕事はできなかった。しかし、給料が伴う初めての仕事に母とチャレンジした。霧雨の降る肌寒い日に、肩掛けの袋に詰め込んで一軒一軒ポストに入れる。▼「仕事はそういうものです。一円のお金を稼ぐのにみんな、汗水たらして頑張ってるんだよ。」と、励ました。そして、次は少し要領よくできると思うから楽しくなる事。一回目は6時間もかかったが二回目は、3時間半だった事、日中は熱中症が心配なので、早朝まで生活が引き締まってくる事、歩く運動になり、朝食が美味い事、人に会ったらおはようも言えるし、良いことづくめである事。頑張れ！▼Nさんは、この仕事の少し前に、「赤い屋根の家」のピアノ伴奏を20回ほど5ヶ月練習し、2部合唱付きでおさらび会を終え、参加者から『努力と自信』の姿に拍手をいただいたばかりだ。側で見守ってきた母のAさんの穏やかな様子も見えた。▼権力とおごりで乗り越えようとしている安倍政権、Nさんの頑張りと努力、この心情がわかる個人を尊重する世の中になれば。（て）